

厳しくも美しい冬の赤岳

山の会カラクルン 福永真由美

オプション山行が赤岳で、貴重な経験させて頂いたことは感謝の気持ちでいっぱいです。

風速が強いため赤岳で登頂できず、それでも赤岳展望山荘まで登頂することが出来たこと、胸がいっぱいになりました。荒天を予想していただけに、まさかのハケ岳ブルーで赤岳も富士山も御嶽山もみんな見ることができました。山と山が繋いでくれたお仲間たち。皆さんのお陰でここに立てたこと、そしてお天道さまが味方してくれたことは、感謝の気持ちでいっぱいです。

「心からありがとう！」

大日ヶ岳で、何度も滑落停止訓練をしたので、自然にできると思っていましたが、できなかったのが残念でした。地藏尾根では、まさかのちょっとしたアクシデントが起りましたが、実際に経験を積むことができ、私にとって一生忘れることのない貴重な体験でした。(怪我もなく、皆さんにご迷惑をかけずに済んで良かったです。)

上りの地藏尾根は、岩と雪がミックス状態で通るのにちょっと時間がかかりましたが、無事に通り抜けることができました。下山では、慎重に降りたのですが、ちょっとつまずいてしまいました。幸い、辻本コーチがザイルロープを繋いでくださっていたので、無事でした。(辻本コーチ、ありがとうございました。) 下山歩行では確認が大切だと反省しています。まるで赤岳さまに、「甘く見るな！」と言われたような気がしました。

それでも、やっぱり雪山は登ります！ 実際にはなかなか経験できない厳冬期の厳しさを、私に経験させてくれた赤岳さまに感謝したいと思います。言葉では言い尽くせない魅力のある山でした。もう一度、冬に登りたいです。

今度は写真をゆっくりと。

この二日間を通して、私自身も少しは成長できたかな、と感じます。満足感いっぱいの幸せな時間でした。一生忘れる事のない、最高のオプション山行でした。

色々ご配慮下さった皆さん、聞こえない私を受け入れてくださった中川校長、辻井コーチたち、本当にありがとうございました。

次に繋げるためにも、ろうあ者も積極的にいろんな講習会に参加してほしいと思っています。

またどこかの山でお会いしましょう！

2月18日 第3回「はじめての雪山講習会」八ヶ岳山行でのスリップについて

第3回はじめての雪山講習会 校長 中川和道

福永さんの山行報告を補足し、滑落ヒヤリハットの経過（速報は2/21[owaf:6703] はじめての雪山講習会ヒヤリハット）を報告させていただきます、

2月18日行者小屋から地蔵尾根を使って赤岳を、初雪講習会受講生7名コーチスタッフ7名で目指しました。赤岳展望荘で強風のため撤退決定、受講生を安全におろすために、地蔵尾根の最上部お地蔵さんのところから、150m フィックスロープを張りました。受講生はカラビナスルーで下降してもらいました。そのあと100m 弱で樹林帯に入れば、ほぼ安全圏です。

福永さんがフィックスロープを通過した後、辻本コーチの判断で、聴覚障がい者の福永さんにはコーチの指示・アドバイスが届かないため、福永さんだけはタイトロープビレーで確保しながら、樹林帯に向かってさらに下降することにしました。コンテで下方に15m 進み、埋もれた階段のあたりを、左下にトラバースしているとき、福永さんは滑落しました。約1m 滑ってしまいましたが、辻本コーチが引いたザイルのテンションですぐ停止しました。（トレースは踏み固められて硬くスリップしやすかったのですが、トレース以外の雪面は約50センチの新雪で滑りにくかったのです。）

福永さんが滑落した場所は、5m 下で傾斜はいったん緩みフカフカの雪田となりますので、仮に滑落してもその雪田で止まりますので、大きなダメージはない所でした（他の受講生はノービレーでそこを通過してもらいました）。

また、先頭で降りたリーダー大見コーチは、何かあった時のために、その傾斜の緩んだところで待機して、受講生を見守っていました。

このスリップについて、3月9日座学で議論を行いました。その結果をまとめます。

- (1)事象の評価：確保なしで下降中に滑落しケガがあれば事故と呼び、ケガなく停止した場合にヒヤリハットと呼びます。このことをもとに考えると、今回の事象は、確保をしての下降中にスリップしましたが適格な確保動作により無事停止しケガもなかったため、ヒヤリハット未満と考えることができます。その意味では福永さんが書いて下さった文章中の「アクシデント (=事故)」との言葉は厳密には正しくありません。ただ、参加者は滑落を初めて見て動揺しており、この事象を克服する今後の方向性をみんなで考えあううえで、ヒヤリハットとしてして考えることが適切であろう。みんなで適度にショックを受けることもよい、との意見が大勢を占めました。
- (2)福永さんは傾斜の強い所では姿勢が山側に傾く癖があったとスタッフの報告があり、アイゼンワークの基礎であるフラットフットイングがおろそかになったのではと推測されます。鉛直の姿勢ではなく、山側に傾いた姿勢で雪面に体重をかけるとステップは崩れやすく、今回の滑落の原因のひとつと思われます。
- (3)今後の防止策を考えあう観点として、コーチだけに対処をまかせるのではなく、自分にも何か出来ることはないか、今後どんなことに気をつけるべきか、明日は我が身の問題として考えようと話し合っていました。

- (4)一般論として、歩行バランスの悪い仲間がいたら、前を歩く人は、自分が歩ければそれでいいとだけ思わず、うしろの仲間を観察し気づかうのがよい。ひときわステップを深くして前を歩き、それでもダメならコーチとともに対応を考えるなどがよい。下りトラバースで谷側ステップが崩れる危険を感じたら足運びを一系列にするのもよいなど、いろいろ考えあっていこうとの発言がなされ、一同うなづきあって議論を進めました。
- (5)確保ができるコーチが少なかった現状についても話し合われました。コーチは、自分も確保ができるコーチになろうと考えよう。そのためにはコーチはリーダー学校修了が必要で、スタッフはリーダー学校入学をめざすのがよいのではないかと意見も出され、今後の課題となりました。
- (6)今後はよりいっそう安全に留意し、雪山の登山に取り組んでいくことを確認しあいました。